



	機能	詳細
インプット	マルチスペクトル画像	☐ Parrot SequoiaとMicaSense RedEdgeなどのマルチスペクトルセンサーから取得した画像をインポート (TIFFまたはJPGとして)
	RGB画像	☐ 標準RGBセンサーから取得した画像をインポート (JPGまたはTIFFとして)
	事前に処理したマップ	☐ 他のPix4D製品で事前に処理されたオルソモザイクや植生指数マップをインポート (geoTIFFとしてインポート)
	フィールド境界	☐ ほ場の対象エリアを集中的に分析するためにフィールド境界を単一もしくはマルチポリゴンのシェイプとしてフィールド境界をインポート (Shapefile, KML, またはGeoJSON)
	ジオタグ付きの画像	☐ GPSタグのついた画像を位置参照された注釈として直接レイヤーにインポートし、マップ上でサムネイルとしてアノテーションを表示 (JPGまたはTIFF)
	注釈	☐ 他のアプリで作成した注釈をインポートし、プロジェクトにオーバーレイ (Shapefile, KML, またはGeoJSON)
ツールおよび機能	農場と圃場プロジェクト管理	☐ 業界標準の農場と圃場でプロジェクトを管理し、作物の種類や品種などといった重要な情報を含める
	高速マッピング	☐ 飛行直後、オフライン・ローカル環境で高解像度オルソモザイクおよびRGB合成を生成
	リグ相対補正	☐ 対応マルチスペクトルカメラ用のリグ相対情報によるバンドアラインメント向上再計算オプション
	フィールド境界エディター	☐ 独自のフィールド境界を作成、または既存のものをインポートし、それを基に他レイヤーをトリミング
	インデックス生成ツール	☐ 事前定義されたインデックスを自動生成 (BNDVI, GNDVI, LCI, MCARI, NDRE, NDVI, SIPI2, TGIまたはVARI)
	指数計算機	☐ 指数関数を入力し、独自のカスタム指数を作成。データ同期でカスタム指数を保存して再度利用可能。
	ゾネーションツール	☐ 通常または高品質レベルおよび2から7つのクラスを使って植生指数マップの情報を基にカスタムゾーンを作成
	処方ツール	☐ 処方ツールを使ってよりターゲットを絞ったインプットのために包括的な適用率マップを作成
	比較ツール	☐ 異なるマップを分割画面またはダブル画面で比較
	注釈ツール	☐ 作物の対象エリアをマークし、説明を記載して、画像を添付またはジオタグ付きの画像をインポートすることで現場の情報を追加
	計測ツール	☐ 計測ツールで素早く距離および面積を測り、現場で分析
	統計情報	☐ DSM、指数レイヤー、およびそれらのエリア注釈の平均と標準偏差を表示。ポイント注釈はDSMと指数レイヤーの数値を表示。
	ラジオメトリック補正	☐ 異なる気象条件で取得したマルチスペクトル画像から、比較可能なオルソモザイク・植生指数マップを生成
	データの同期	☐ 複数デバイスでプロジェクトを同期し、異なるPC・タブレットで作業を可能とする
	PDFレポート生成	☐ PDFレポートエクスポートツールを使って全てのプロジェクト関係者とマップを共有し、円滑な連携をとる
	エクスポートツール	☐ プロジェクトの複数または全てのレイヤーを選択し、コンピュータの任意のフォルダへエクスポート
	高度なレイヤーの可視化	☐ 標準化を含めたヒストグラム値の範囲が調整でき、関心のあるデータ値表示のコントロールが可能
	JOHN DEERE オペレーションセンターへ共有	☐ オルソモザイク、植生指数マップ、ゾネーションマップなどのPix4Dfieldsからのアウトプットを直接John Deereオペレーションセンターへ共有する

アウトプット	オルソモザイク	☒	偵察、保険金請求および基本的な作物の評価のための圃場の直感的な再現。出力サイズ(メガピクセル)と品質(GSD)は任意で設定可能。(geoTIFFとしてエクスポート)
	数値表層モデル	☒	灌漑による変動性および浸食に脆弱なエリアをより詳細に確認するためのマップ
	植生指数マップ	☒	植生が最もストレスを抱えるエリアを確認し、作物保護、作物生産ワークフローを支援するためのマップ
	ゾネーションマップ	☒	植生指数マップをより実用的なレイヤーに変換したマップ(Shapefile、KMLまたはGeoJSONとしてエクスポート)
	処方マップ	☒	ゾネーションマップに各ゾーンの適用率の値があるもの(Shapefile、KMLまたはGeoJSONとしてエクスポート)
	フィールド境界	☒	フィールド境界は対象エリアの集中的な分析を支援する(Shapefile、KMLまたはGeoJSONとしてエクスポート)
	注釈	☒	対象エリアに注釈を加えることによってより価値のある実用的な情報を伝達(Shapefile、KML、またはGeoJSONとしてエクスポート)
	PDFレポート	☒	プロジェクトの全ての情報をまとめるレポートで簡単に情報共有(PDFとしてエクスポート)
	統計情報	☒	レイヤーと注釈の統計情報はスタンドアロンファイルとしてエクスポート可能(CSVエクスポート)
	スナップショット	☒	現在のマップビューのスナップショットを作成し、圧縮画像形式としてエクスポート(JPGとPNGとしてエクスポート)
複数言語対応	言語オプション	☒	アプリケーションの機能は現在英語、中国語、ドイツ語、日本語、スペイン語、およびポルトガル語で利用可能

ハードウェア  
スペック**CPU:** Intel® Core™ i3 または AMD Phenom プロセッサ (もしくはより高速なもの)**HD:** 約 4GB HDD の空き容量**RAM:** 4GB RAM (もしくは 8GB 推奨)**GPU:** NVIDIA GeForce 2 GB RAM (もしくはより高スペックなもの)**OS:** Windows 10 / macOS Catalina (10.15) (もしくはより新しいもの)